

姿勢管理

1. 電動ベッド

電動ベッドの背部と足の角度調整は、注入食の際の姿勢に限らず、ご本人の快適さ、介護のしやすさに影響します。非常時電源を用意していないとベッドの高さの昇降ができないことで、移乗における介護負担が増加します。

ご本人の快適さだけでなく、医療的ケアや介護の面からも電動ベッドと非常時電源について準備しておくことは大切です。

電動ベッドは停電に対応しているベッドを選択する

【停電に非対応のベッドの対応方法】

停電に非対応のベッドを使用している場合は、ポータブル蓄電池や発電機などの非常時電源を確保する必要があります。

【停電に対応している電動ベッドの対応】

使用しているベッドの取扱説明書に従いましょう。一般的には、はじめに電動ベッドの電源プラグをコンセントから抜き、その後に停電ハンドル（停電時に手動で操作できるハンドル）を用いて、安楽な姿勢となるように背部と足の角度を調整します。

※パラマウントベッドの停電用スマートハンドルに関しては、ベッドの昇降を意味するのではなく、頭側を下げる機能であることに注意してください。

【非常時電源を活用した対応方法】

電動ベッドの電源プラグの形状に合わせてポータブル電源のコンセントに差し込みます。平時と同様に電動ベッドの昇降機能を使用することが出来ます。

ティルト&リクライニング式車椅子を活用する

ティルト&リクライニング式介助型車椅子を使用している場合は、背もたれを倒してベッドのように車椅子を使用することが出来ます。介助型車椅子のリクライニング機能は電源が不要ですが、電動車椅子をご使用の場合には、車椅子のバッテリーの残量を確認しながら使用する必要があります。また、自宅から避難が必要となった際に速やかに移動できる利点となります。

2. 停電時のエアマット

数日は空気を保持するが、圧切替や除圧機能は働かない

【停電時のエアマットの機能】

現在の主要な機種は、停電すると自動的に空気の排出を停止し、約2週間（メーカーにより異なる）

は空気を保持することができます。ただし、圧切替や除圧効果は働かないため、定期的にクッションなどを用いて体位交換をしましょう。

※カプラー（または送風チューブ）を外さないように注意してください。

【非常時電源でのエアマット】

エアマットの電源プラグの形状に合わせてポータブル電源のコンセントに差し込みます。平時と同様に圧切替や除圧機能を使用することが出来ます。

3. ポジショニング

日々のケアの中で、褥瘡ができやすい部分（仙骨部、かかと 等）を確認し、災害時にエアマットが使用できない状況を想定したポジショニング方法を検討しましょう。

普段支援していない方が対応する場合もありますので、ポジショニングがわかりやすい資料を準備しておく心安心できます。